

岩本渉先生によるグローバル講演会  
「～グローバル社会に生きる～ 異文化理解ということ」

平成 27 年 11 月 16 日(月曜日)、LHの時間を活用してグローバル講演会が行われました。講師は中部大学客員教授で千葉大学エグゼクティブ・アドバイザーの岩本渉先生です。岩本先生は、フランス大使館一等書記官やユネスコなど海外のご経験が豊富で、国際的な視野から長く国の教育行政の中核で活躍されてきました。昨年に名古屋で開催されたESDユネスコ世界会議の運営も担当され、平成27年3月に文部科学省を退官された後は、中部大学・千葉大学でご指導に当たられています。

はじめにユネスコの役割について説明されました。数あるユネスコの機能の内、特に教育の普及に力を入れていること、国連のミレニアム目標や、今年の9月に採択された持続可能な開発目標でも教育の普及が盛り込まれているという話でした。

次にESDの話がありました。本校もユネスコスクールの一員として、修学旅行の取り組みなどを生かしてESDを実践していますが、主催されている岩本先生の説明によって改めて **Sustainable Development** の意味するところを実感しました。ESDが提唱された背景、日本が中心となって取り組んでいること、従って現在の日本の学校教育でもESDの視点に立った学習が重視されていることなどを話されました。

3点目はESDユネスコ世界会議の意義についての話でした。2005年から開始された「国連持続可能な開発のための教育の10年」の仕上げとして、昨年11月に名古屋で開催されたことは私たちの記憶にも新しいことです。さらにその後継プログラムGAP(グローバル・アクション・プログラム)が始まったという話でした。

最後に異文化理解についての話がありました。グローバル人材とは何か、異文化理解はなぜ必要なのか、互いの価値を認めるとはどのようなことか、私たちに何が必要なのかという国際社会における根幹となる事柄について、分かりやすく説明いただきました。

岩本先生の講演を通して、生徒諸君は現在取り組んでいるESDの意義を改めて実感できました。ESDとは、全く新しい事に取り組むのではなく、国際理解・環境・多文化共生・人権・平和・開発・防災といったこれまでも問われてきたテーマを、持続可能という視点で捉え、学ぶということです。グローバル社会において各人が何を自覚して、何を実践すべきかという指針を得られた講演会でした。

